

明日に向かって

県政活動レポート

報告レポート No.72



工藤 兼光
ホームページ
はこちらから

喜びも悲しみも分けあって支え合い、共に生きる社会の実現に向けて

9月17日定例会が始まるというこの日、若い新議長、副議長と懇談する。
超高齢化社会にあって、歯止めがかからない少子化対策等について。

中央が上北郡選出、工藤慎康議長 右側が弘前市選出、齊藤爾副議長 議長室にて

ふるさとの山に向かいて言うことなし

広大な緑の大地も、見事な黄金色にかわり作柄も順調な取り入れの秋となりました。

青森県議会は9月定例会も終わりました。今回の補正は23億9,280万円となり、その計上の主なるものは、「米価高騰をはじめとした物価高への対応」は、子育て世代の方々から、食費負担が特に大きくなっている、との切実な声に寄り添う県独自の支援策として、18歳までの子供を持つすべての世代に対し、県産米の購入に使える電子クーポン券を提供し、子どもたちに美味しい県産米を食べて頂きたい、という趣旨であります。そして、「産業交流を支える基盤等の充実強化」、「子ども等の学びを支える教育環境の整備」等の三つの柱であります。この他に、私の文京公安委員会活動や、政務調査活動などの報告でございます。つたない報告ではございますが、引き続きご高覧頂き、皆様方の貴重な声を届けて下さいますようお願いしております。

津軽平野から岩木山を望む

青森県議会議員

工藤 兼光

皆様のご意見、ご要望をお寄せください。

〒038-2712 青森県西津軽郡鰺ヶ沢町大字長平町字甲音羽山59-2
TEL 0173-72-1224・FAX 0173-72-1233

討 議 資 料

青森県初の義務教育学校 施設一体型小中一貫教育校

六戸町立義務教育学校六戸学園

六戸町では、町立小学校3校と町立中学校2校を再編し、新たに「六戸町立義務教育学校六戸学園」が令和7年4月に開校しました。校訓に「みる、しる、とぶ」を掲げています。一人一人が輝き、変化の激しい社会の中にあっても、子どもたちの「生きる力」を育むために、義務教育9年間を一体的に捉え、指導の一貫性、学びの系統性、連続性を強化した教育活動を展開する教育を推進します。としています。

六戸町は人口約1万人、目立った高山、湖沼はなく十和田湖を源流とする流域には農地が広がる。積雪は少なく年間を通して穏やかな気候の町であります。



盛岡市子ども科学館

盛岡市子ども科学館は、1983年5月5日に開館し、その使命は「子どもたちに科学する心」だとの事です。子どもたちに、実験、観察をとおして確かめたいと言う思いを育てる事を目指す、と言う使命を意識したサービスを提供し続けているとの事です。その具体的な取り組みとして「年間テーマ」を設定し、毎年違う切り口で科学、技術の面白さを体験してもらう活動をしていると言う。

ちなみに2024年度の年間テーマは「しくみ」とし、普段身近にあるものは、いったいどのようなしくみなのでしょう？何気なく使っているものや、目にしているものでも、しくみを知るとさらなる興味が生まれます。そこで「しくみ」を切り口にして、子どもたちが自ら科学、技術の面白さを発見できるように各事業を展開しているといいます。

その甲斐あってか2024年度の入館者数は約10万人、総利用者数は14万人と少子化が高速に進む中、盛岡市民をはじめ、多くの皆様に愛される科学館であることを実感した。



施設を利用する 子どもたち

この施設の趣旨は、「聞く、教わるではなく」自ら実験し、自ら体験し考える力を育む、大きな意義深い施設だと感じました。



「科学館の資料から」

令和7年大船渡市大規模林野火災の警察活動

令和7年2月26日発生覚知から鎮火宣言まで消防と情報共有を図りつつ連携して被災地内での避難誘導や、安否確認、救助活動、被災家屋の確認、盗難防止の為の警戒交通対策、などなど落ち着くまで警察動員約6000人に上るとの事です。この様な甚大な火災や災害が二度と起こらないように、尚一層防災減災に取り組まなければなりません。



岩手県ヘリ「ぎんが」撮影、提供

救助活動

2月26日、「家族が三陸町綾里地内の小路漁港に取り残されている」と要救助者の家族からの救助要請を受け、大船渡署警備船「さんりく」が出動、漁港付近は風速10メートルを超える強風と煙による視界不良に加え、湾内に浮かぶ養殖筏も進行の障害となる中、警備船（搭載艇）を駆使し、要救助者6人を無事救助



警備船「さんりく」



地元新聞掲載写真(東海新報)



TVニュース(NHK)

津軽沿岸海岸メンテナンス事業(事業延長1000m 鰺ヶ沢町)



大和田海岸は、国道101号及びJR五能線と平行したところに位置し、日本海に面した浸食の激しい海岸です。当海岸の護岸は昭和45年度から災害復旧事業等により順次築造されましたが、既に50年以上経過しているため、コンクリートの老朽化や護岸の沈下等が発生しており、海岸保全施設の機能が著しく低下していることから、当海岸施設の機能を確保することを目的に、令和3年度から事業に着手しています。

国道101号横磯工区 雪寒地域道路整備事業(深浦町)

全体延長2100m うち整備済み延長1620m
計画起点まであと480m



横磯、岩崎方面へ
計画終わり起点まで後480m

「鰺ヶ沢町大字赤石町排水処理」 この地域の右側に斜面が広がっている。



雨が降り続けると、この斜面から大量の雨水が流れ出し道路の左側に立ち並ぶ民家に被害が出ている。この道路の右側にも側溝が欲しいと地域住民から要望が出ております。河川事業所からは流末等の排水システムを検討のため時間を要します。の回答を得ています。引き続き活動を続けます。



鰯ヶ沢町老人クラブ連合会
小島 千代枝 会長

令和7年度鰯ヶ沢町老人クラブ連合会、視察研修 「ねぶたの家ワ・ラッセ」「青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸」

7月11日鰯ヶ沢町老人クラブ連合会(小島千代枝会長)では視察研修が行われました。参加者は42名、私も同行いたしました。視察研修場所は、一つ目は、青森市文化交流施設「ねぶたの家ワ・ラッセ」と二つ目は「青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸」の歴史文化でした。ねぶたの家ワ・ラッセでは平日であるにもかかわらず、大勢のお客さんで賑わっていました。その中でインバウンド、外国人の方が多いように思われました。

祭りを題材にした日々の取り組みは、地域の経済効果が大きいと思いました。また、普段の賑わいがあって、更に8月の祭り本番には沢山のお客さんが訪れるものと思いまし

た。「地域振興」先ずは集う事だそう。青森県の祭りの経済効果は、東北地方一位だそうで、二番目が仙台の七夕祭りだとの事。日本人は米をすることによって、勤勉さや神々の信仰、精進性を学び取りその集大成が郷土芸能文化まつりだと鈴木健二先生は言う。

又、私達はこの事も学び、何よりも「元気に楽しく」と小島千代枝会長は言う。



メモリアルシップ「八甲田丸」

青森と函館を結ぶ青函連絡船が就航したのは1908(明治41)年。以来80年間にわたり1億6000万人の乗客と2億5000万トンの貨物を運びました。その航行距離は8000万キロ、地球を2.019周分にも及ぶとの事です。その中で、八甲田丸は、就航1964(昭和39)年8月12日に、最終運航は1988(昭和63)年3月13日、1988年に青函トンネルが開通したことによりその役割を終えました。歴代55隻の青函連絡船の中で最も長い23年7ヶ月間、津軽海峡を往復し、最終航行船の大役を務めました。そのような事から平成20年経済産業大臣からは「近代化産業遺産」に認定されました。八甲田丸はその歴史的価値を後世に伝える為、1990年から青森港でメモリアルシップとして一般公開されています。その八甲田丸も船体の老朽化は避けられず、補修に係る費用は莫大なものであり管理者だけが賄うものでもなく「八甲田丸を守る会」が発足、仕事や帰省、修学旅行など様々な思い出を、八甲田丸に重ねて頂ける方々や、船を愛する方々のご支援が必要です。



問2 白神山地の活用と地域の活性化について

(1) 秋田県知事との会談を踏まえ、白神山地及びその周辺地域の活性化に向けた知事の思いを伺いたい。



黒石市選出 オール青森
大平 陽子 議員

答① 白神山地は、東アジア最大級の原生的なブナ林と、多種多様な動植物が織りなす生態系の「顕著で普遍的な価値」が認められた世界自然遺産であり、我々にはこの人類共通の財産を後世に引き継いでいく責務があります。

② 秋田県知事との会談では、白神山地の保全と利活用、周辺地域の活性化に向けて、両県の連携を一層強化していくことで一致しました。



環境厚生委員会(谷川正人委員長)では白神の森遊山道の整備状況について等を調査。(鯨ヶ沢町)

今後は、両県並びに関係市町村が一体となって、アクティビティの開発や情報発信を強化するなど、白神山地の自然や価値を保全し、地域が輝きを増していくよう取り組んでいきます。

(2) 白神山地の資源を活用した地域の活性化に向けて、県はどのように取り組んでいくのか伺いたい。

答① 県ではこれまで、白神山地及びその周辺地域の豊

かな自然資源を活用したアクティビティの提供や環境学習プログラムの開発等を通じて、白神山地の価値の普及や活用推進に取り組んできました。

② 今年度は、7月に横浜市で開催された「モンベルフレンドフェア」に関係市町村や団体等とともに、白神山地のPRブースを出展したほか、来月1月、新青森県総合運動公園で開催する「モンベルフレンドフェア in 青森」において、青森、秋田両県の市町村や関係団体等が取り組むアクティビティの体験や物産品の紹介などを通じた魅力発進を行うこととしています。

③ 今後とも、更なる地域の活性化に向けて秋田県や関係市町村等と一体となって取り組んでいきます。

このイベントには2日間で約2万人のお客さんが押し掛けたと言う。このようなイベント等に関係市町村や団体等共に連携し積極的に宣伝事業を展開して頂きたいと思います。



問 1 ナラ枯れ被害対策について

(1) 本県におけるナラ枯れ被害の状況と被害拡大の要因について伺いたい。

答① 本県のナラ枯れ被害本数は、昨年7月から本年6月までの令和6年シーズンにおいて、令和5年シーズンの約2.5倍となる6万1,362本となっており、三八地域を除く県内21市町村で被害が確認されています。

② また、本年7月からの令和7年シーズンについては、9月のナラ枯れ被害調査強化月間に、現地での目視確認や、県防災ヘリなどによる上空探査等により、被害の状況を調査しており、現在、新たに八戸市、階上町、野辺地町、七戸町及び東北町で被害が確認されています。

③ 本県において被害が拡大している要因については、専門家によると、薪や炭等の燃料としてナラの木の伐採・利用が減少した結果、幹が太くなり、病原菌を媒介する昆虫が繁殖しやすい環境となったことや、近年の暖冬の影響で媒介昆虫の越冬個体数が増加したことなどが考えられるとのことです。

(2) 被害防止に向けた県の取組について伺いたい。

答① 県では、これまで、ナラ枯れ被害の拡大防止に向けて、被害木の早期発見と徹底した駆除を行ってきましたが、近年、対策を上回るスピードで被害が拡大しています。

② このため、専門家からの助言等を参考に今年度は新たに被害を受ける前の太いナラを伐採し、若返りを

図る取組に対して支援を行っているほか、海岸防災林など、特に保全が必要なナラ林を県及び市町村が選定し、重点的な保護対策に取り組んでいくこととしています。

③ 今後は、令和7年シーズンの被害概要を取りまとめる10月に開催を予定しているナラ枯れ被害対策検討会での意見などを踏まえ、引き続き国や市町村等とも連携しながら被害防止に向けた取組を進めていきます。



五所川原市選出 自由民主党
櫛引 ユキ子 議員

松くい虫から始まりナラ枯れ被害、県ではその防止に全力を尽してきたが其の被害拡大のスピードは手の付けられない程だ。これでは「山」が危ない。公益的機能を果たす森林、国が全面的に立ってその管理を行うべきだ、と私は思う。

甚大なナラ枯れ被害が広がる、鯨ヶ沢町赤石地区

写真はドローンで撮影、林政課提供